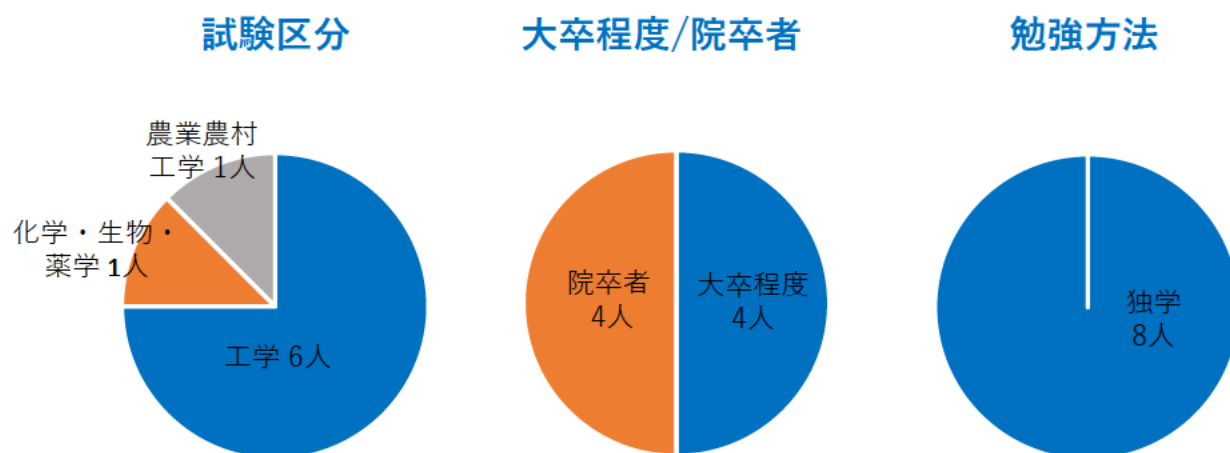


第二部 国家公務員採用総合職試験 体験記

■ はじめに

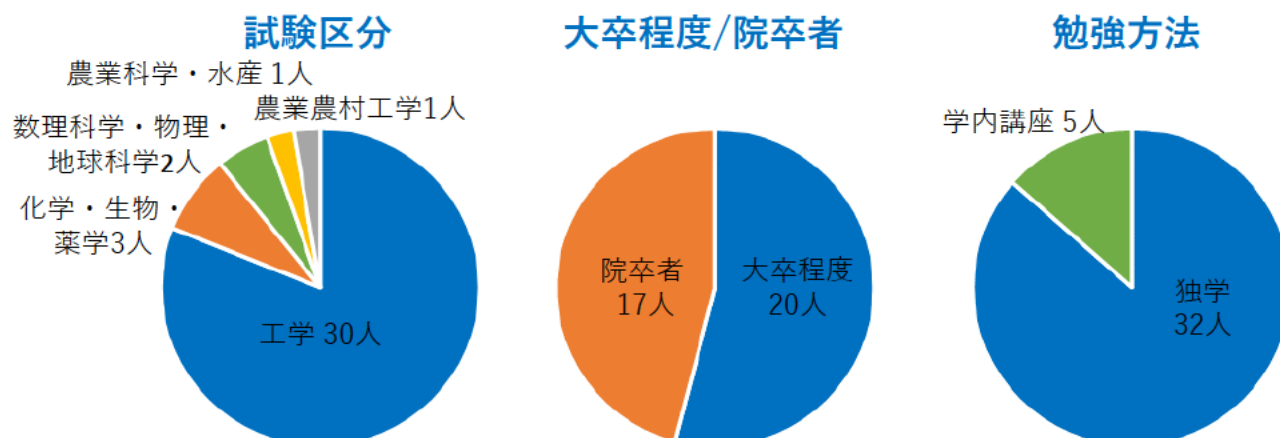
第二部では、内定者8名による国家公務員総合職試験の勉強・対策方法をお伝えします。なお、本冊子に記載している試験方法や内容は、2021年度内定者が受けた試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。特に、2020年度の試験は、新型コロナウイルス感染症の影響により、試験日程が例年と異なっていますので、注意してください。また、勉強方法や選択問題のおすすめ等については、あくまでも内定者個人の見解に過ぎず、もし事実と異なった場合でも責任はとりかねますことをご了承下さい。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです。

■ 令和3年度総合職理工系内定者の内訳



※学内講座、予備校利用者はなし。

■ 過去5年分（平成29年～令和3年）総合職理工系内定者の内訳



※予備校利用者はなし。
※H28年度以前には予備校利用者あり。

■ 国家公務員総合職試験の概要

試験区分には、大卒程度試験と院卒者試験の2区分に加え、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく2つに分けられ、「一次試験（マーク式試験）」、「二次試験（記述式試験＋政策試験＋人物試験）」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。

（参考）

2015年度の試験から、TOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検のスコアに応じた得点が試験の総得点に加算されるようになりました。例えばTOEICなら600点以上で15点の追加、730点以上で25点の追加です。詳細は人事院のWebサイトをご確認下さい。英語試験による加点システムを利用予定であれば別途英語試験（TOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検）を受験する必要があります。

一次試験

基礎能力試験

いわゆる教養試験で、大卒40題、院卒は30題です。問題は多岐に渡っており、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識力などが試されます。マーク式です。

専門試験

マーク式で、大卒も院卒も40題です。選択する専門区分によって形式が異なるのでよく確認が必要です。

二次試験

専門試験

完全記述式です。基本的には、複数の分野から1～2問選択して回答します。理工系においては専用の参考書などはあまりないので、大学の定期試験、院試、過去問や専門書による勉強が中心となるようです。

政策論文（大卒程度）

専門試験と同じ日に行われる試験です。出題されたテーマに対し、与えられた3つの資料を使いながら、A4裏表1枚に自分の考えをまとめていきます。配布資料は文章とグラフの両方が与えられ、英語の資料が用いられる場合もあります。

政策課題討議（院卒者）

専門試験とは別の日に行われる試験です。配布される和文・英文の資料に目を通し、自分の意見などを加えた討論用のレジュメを作成します。グループ全員にレジュメを配布し、意見発表、集団討論、もう一度発表、という手順で行います。

人事院面接

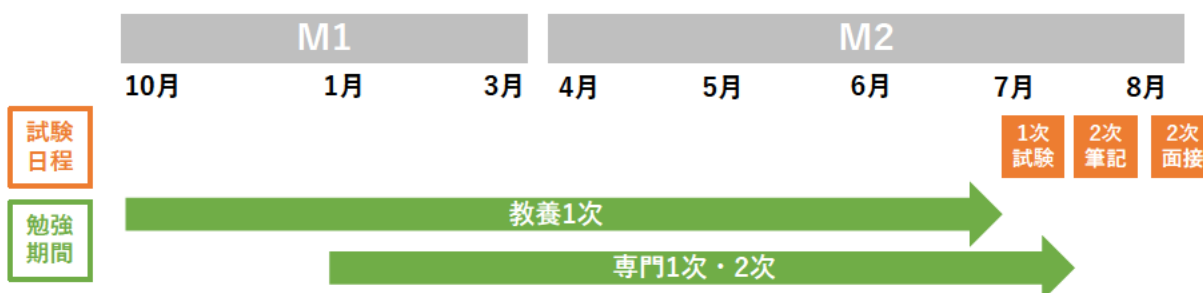
当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおおよそ10～20分程度で、面接官は3人です。

※2020年度の試験では、大卒程度試験では二次試験の専門試験が、院卒者試験では二次試験の政策課題討議が、新型コロナウイルス感染症の影響により実施されませんでした。また、試験日程も例年と異なっています。内定者の体験記については、これらを踏まえた上で参考にして頂ければと思います。

せり鍋（工学区分/院卒者/2020年度※コロナのため異例）

～ 大学所在地：宮城県 / 環境科学研究科 先進社会環境学専攻～

スケジュール



M1の10月頃から少しずつ教養の勉強を始め、専門は1月頃から勉強を始めました。専門の2次の勉強は6月頃から始めました。民間就活や研究、長期インターンであまり勉強の時間がとれず、受かるにはかなりギリギリのスケジュールだったと思います。勉強を始める前にまず過去問を解いて自分のレベルを把握し、余裕を持った勉強をすることをおすすめします。

教養・専門・論文/政策討議・面接の勉強量バランス



民間も受けていたので、公務員試験用の面接対策はほとんどせず、ほぼ筆記試験対策に時間を使っていました。学部時代の専門科目もあまり得意ではなかったので、専門に比重を置いた勉強をしていました。

※コロナのため討議は実施なし

試験結果

- ・ 席次 下
- ・ 英語加点 あり（15点）

利用してよかったもの

- ・ 機械系四力問題精選
- ・ 過去問（総合職・一般職）
- ・ スーパー過去問

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

基本的にはスー過去と過去問で対策をしていました。特に判断推理や資料解釈は慣れと解くスピードが求められるので、いろいろな類題に広く触れて勉強すると効果的だと思います。時事問題は、「速攻の時事」を読んで出そうなポイントを把握していました。

■ 専門1次（技術論、基礎化学、流体力学、材料力学、熱力学）

自分の研究分野（基礎化学）と、学部は機械専攻だったので四力の科目を中心に勉強しました。学部で使った教科書やプリントを使って、基本事項のおさらいをしました。前半部分（数学や物理）の対策をあまりしておらず、本番で焦ってしまったので、幅広く勉強すればよかったと思っています。

■ 専門2次（流体力学、熱力学）

基本的には機械系四力問題精選で勉強していました。細かい式の導出や読んでも分からない部分は調べて四力問題精選に書き込み、試験直前は隙間時間にも見直していました。自分が受けた院試と出題範囲が重なっているものがあれば、院試勉強で使った参考書を活用すると思います。

■ 政策討議

コロナの影響で中止になったため特に何もしていません。

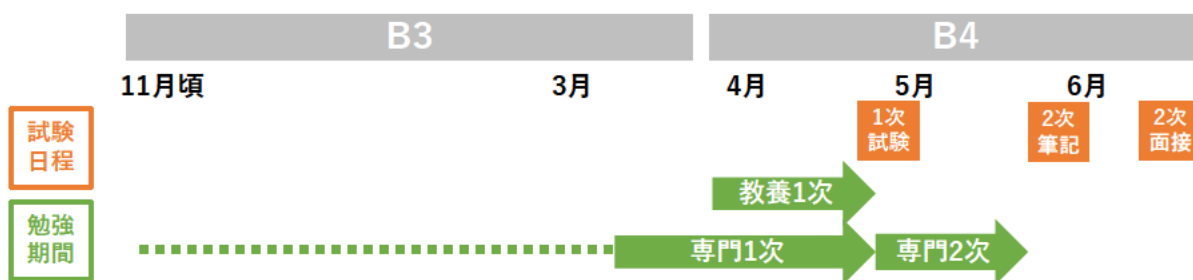
■ 人事院面接

今年度は人事院面接の前に官庁訪問があったため、その際に書いたものを要約するような感じで面接カードを書きました。人事院面接は面接時間が短いため、自分のアピールポイントを端的に話せるように心がけて、官庁訪問の際に作った想定問答集をおさらいして面接対策をしました。

公ペンくん（農業農村工学区分/大卒程度/2018年度）

～ 大学所在地：京都府 / 農学研究科 地域環境科学専攻～

スケジュール



試験の半年位前から専門の計算分野の勉強を少しずつ進めました。部活引退後の3月中旬から本格的に勉強を開始し、まずは1次試験に合格することだけを考えた対策をしました。専門1次終了後から専門2次の過去問を解き始めましたが、1次の勉強からある程度必要な知識は頭に入っていたと思います。2次の筆記試験後から面接までは二週間くらいあったと記憶しています。

教養・専門・論文/政策討議・面接の勉強量バランス



教養試験対策は最低限にし、試験の配点が高く、伸びしろの大きい専門分野に注力していました。面接は直前の対策のみで切り抜けられましたが、民間の就活を未経験の場合は、友人や先輩、学校の就活相談窓口等を活用して練習した方が良いと思います。

試験結果

- ・ 席次 中
- ・ 英語加点 あり（15点）

利用してよかったもの

- ・ 過去問（7、8年分程）
- ・ 農業土木職採用試験 精選問題と解説
- ・ 農業農村工学ハンドブック

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

過去問を解き、出題頻度が高そうな問題は解けるようにしていました。本番ほとんど手が出せなかった数的処理の問題はもう少し勉強するべきでした。

■ 専門1次（設計・施工、農業水利学、土地改良、農村環境整備）

上記科目のうち3つを選択できるように勉強していました。設計・施工の問題の難易度が一番高いように感じていましたが、計算ができれば正しい答えが出せるので、土質力学を中心に問題演習に励みました。必須科目の応用力学や水理学は大学のテキストや図書館の本で対策しました。知識問題は農業農村ハンドブックや農業白書で該当箇所を探してまとめました。

■ 専門2次（農業水利学、土地改良、農村環境整備）

1次試験の対策で忙しかったので、1次試験が終わってから2次試験までの一カ月で対策しました。農業農村工学ハンドブック（とても分厚いのでハンドとは言えない）を基に、過去問の問題ごとに答案を作成しました。

■ 小論文

ネットで調べた小論文の構成を参考に、1、2回実際に書いてみて練習をしました。

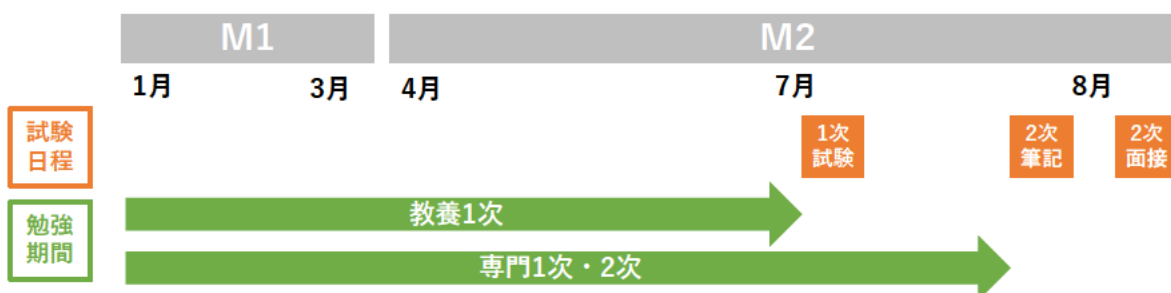
■ 人事院面接

客観的な意見が重要だと考え、友人に面接カードや面接の練習をしてもらいました。面接では面接カードに書いた内容が深掘りされたので、追加のエピソードも予め用意すると良いと思います。

やきなす（工学区分/院卒者/2020年度※コロナのため異例）

～大学所在地：東京都/工学系研究科 都市工学専攻～

スケジュール



M1の冬からざっくりと試験問題の把握をしていましたが、試験対策に本腰を入れたのは3月以降です。（試験が延期されていなかったら恐らく間に合っていない…）

教養・専門・論文/政策討議・面接の勉強量バランス

教養
10%

専門
90%

教養より専門に集中した方がより点数を取れると思ったので、教養はどんな出題傾向かをつかむ程度でほとんど専門の対策に時間を使いました。面接は特に何もませんでした。

※コロナのため討議は実施なし

試験結果

- ・ 席次 中
- ・ 英語加点 あり（25点）

利用してよかったもの

- ・ 過去問、参考書
- ・ 大学の講義資料、教科書

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

過去問として昨年度の問題を一通り解いただけで対策という対策が出来ていなかったもので、とにかく当日に時間配分だけを気にしながら解きました。

■ 専門1次（技術論、基礎化学、工学基礎実験、環境工学・衛生工学、材料工学）

必須問題の数学と物理が不安だったので高校の教科書を見直したり、参考書で問題を解いたりしました。選択問題については見たことのある科目や問題が多いものの、解けるほどの記憶がなかったので学部で使った教科書や資料を見返しながら復習しました。個人的に学部の時に色々な科目を取っていたこともあり、選択できそうな科目が多かったのは少し安心できました。

■ 専門2次（環境工学・衛生工学（A）、熱力学・熱機関）

1次で勉強不足ゆえ選択しなかった熱力学を真面目に教科書を使うなどしてやり直しました。こちらに時間をかけていたせいで環境工学の方は院試のおさらい程度しか対策しませんでした。二度手間と言える効率の悪い勉強方法となってしまうので、当たり前ではありますが計画的に早めから対策することをおすすめします。

■ 政策討議

コロナのため実施なし。

■ 人事院面接

官庁訪問が先にあったこともあり、特に対策はしませんでした。当日は、志望動機など面接カードに書いたことをなんとなく頭に浮かべて慌てず簡潔に答えることと、官庁訪問とは切り替えて専門性が高くないようには意識しました。

よんち（工学区分/大卒程度/2020年度※コロナのため異例）

～ 大学所在地：大阪府 / 工学系研究科 環境エネルギー工学専攻～

スケジュール



2月中旬に卒業論文が終わってから、教養、専門ともに研究室に置いてある過去問を中心に試験勉強を始めました。2次試験の勉強は1次試験が終わってから始めました。

コロナの影響で1次試験が4月末から7月頭に、2次試験が5月末から7月末に遅れましたが、本来の日程であれば間に合っていたか微妙だったので、もう少し早くから勉強を始めても良いのかなと思います。

教養・専門・論文/政策討議・面接の勉強量バランス



試験日程が大幅に遅れ、時間に余裕があったので、研究と並行しながら、専門試験は特に1から勉強し直しました。コロナの影響で2次専門の試験がなく、政策論文や面接の配点も高かったため、1次試験が終わった後にそれらの対策は力を入れて行いました。

※コロナのため2次専門は実施なし

試験結果

- ・ 席次 上
- ・ 英語加点 なし

利用してよかったもの

- ・ 過去問
- ・ 物理のエッセンス（大学受験用）
- ・ 大学のレジュメ
- ・ 速攻の時事
- ・ オンライン面接練習

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

過去問を7年分くらい解いて勉強しました。英語の正答率があまり良くなかったので、先輩からいただいた問題集で追加で演習しました。試験1～2週間前に最後に速攻の時事を購入し、時事問題の確認をしました。

■ 専門1次（基礎化学、電磁気学、熱力学、原子力工学、機械力学、電気工学）

共通問題や基礎化学、電磁気学に加えて、機械力学や電気工学の1問目は大学受験の物理や化学で大体は対応できるので、過去問を解きながら、適宜受験期に使った参考書を使って思い出して勉強しました。熱力学や原子力工学は、大学の授業の教科書やレジュメを参考にしながら過去問を解いて勉強しました。

■ 専門2次

コロナの影響により実施なし。もし、受験するのであれば熱力学と電磁気もしくは原子力工学で受験していたと思います。

■ 小論文

小論文に関しては、研究室に置いてあった予備校のテキストを読みながら、過去問や演習問題を20～30回分ほどやりました。10回目くらいを過ぎたあたりから、まとまって書けるようになってきたので、勉強するのであれば、それくらいの回数をめどにやると良いと思います。ただ、通常の試験日程で、時間がなければ2次専門の勉強を優先したほうが良いかと思います。

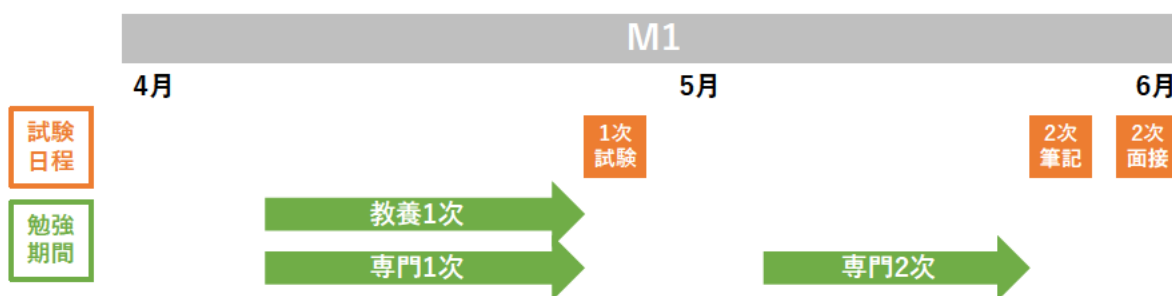
■ 人事院面接

オンラインで疑似面接をしてもらえるサイトを偶然見つけ、練習を1回行いました。さらに、どのように面接シートを書けば良いかアドバイスをいただき、それを基に面接シートを作成しました。

ラベンダー（工学区分/大卒程度/2019年度）

～ 大学所在地：東京都 / 工学系研究科 建築学専攻～

スケジュール



M1の4月に、就活年度ではない年にも公務員試験を受けられることを知り、試しに受けてみることにしたため、あまり勉強できていません。対策が不十分なまま受けるのはリスクなので、就活年度に試験を受ける人は私の体験談は参考にならないかもしれません。試験まで時間はほとんどなかったため、1次試験まではその勉強をし、1次試験が終わってから2次試験の勉強をしました。

教養・専門・論文/政策討議・面接の勉強量バランス

教養
30%専門
70%

短時間の対策でも点数が取れそうなところから優先的に勉強していきしました。専門は院試の知識が残っていることを当てにし、教養にも比較的時間を取りました。小論文や面接についてはほぼ対策できていません。

試験結果

- ・ 席次 上
- ・ 英語加点 あり（25点）

利用してよかったもの

- ・ 工学に関する基礎の問題集
- ・ 院試の勉強で使った大学の授業プリント

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

教養試験問題集で、文章理解、判断・数的推理、資料解釈の問題を解いて慣れておきました。時間がない人はこのあたりの範囲を勉強すると効率的だと思います。

■ 専門1次（技術論、環境工学・衛生工学、建築構造・建築材料・建築施工、建築計画・建築法規・建築設備、建築史・都市計画、原子力工学）

工学に関する基礎の問題集で、不安な範囲を解いて対策しました。選択科目の方はあまり対策できませんでしたが、当日は建築分野の中から、院試の時の知識を思い出して分かるものを解いていきました。また、原子力工学の中に簡単な問題を見つけたので、科目名に捉われず解けそうな問題を探すとよいと思います。

■ 専門2次（構造力学(土木)、環境工学(土木)・衛生工学)

大学のキャリア相談室で過去問の閲覧だけすることができたので、それで雰囲気を確認しました。構造力学は、院試の時に使用した大学の授業プリントで、基本の公式と解き方を復習しました。もう一つの選択科目は院試の知識で解けそうなものがなく困ったまま当日を迎えましたが、環境工学・衛生工学が計算問題ではなく文章で答える問題だったため部分点がもらえそうだと思います、選択しました。

■ 小論文

目標文字数と書くスピード感の確認を一度しておきました。当日は、全体の構成を分かりやすくすること、伝えたいことを明確にすること、答案用紙を最後まで埋めることを意識して書きました。

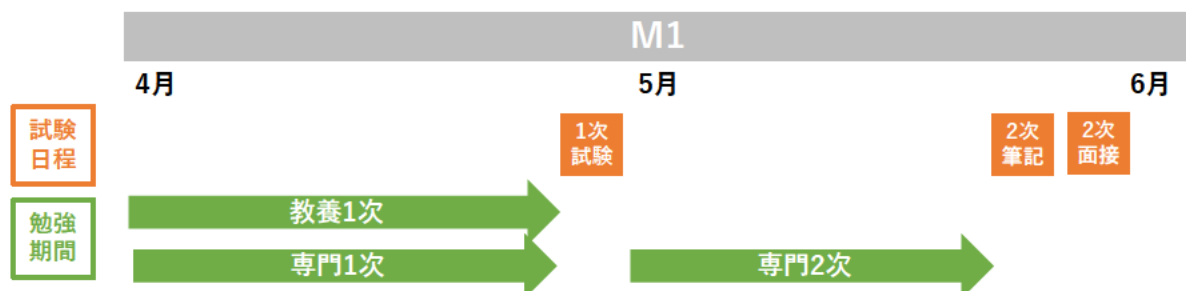
■ 人事院面接

まだ他の就活を始めていなかった時期だったため、対策はほぼできていませんでした。

親知らず（工学区分/大卒程度/2019年度）

～ 大学所在地：大阪府 / 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻～

スケジュール



M1で合格しておくとか何とかという話を聞き、とりあえず挑戦してみようという気持ちで、M1の4月から1次試験に向けて勉強を始めました。1次試験は院試の記憶と過去問対策で何とかかなりでしたが、2次試験の対策を1か月で行うのはかなり大変でした。専門試験対策は1次と2次同時進行で行うことをおすすめします。

教養・専門・論文/政策討議・面接の勉強量バランス

教養 30%	専門 60%	論文 5%	面接 5%
-----------	-----------	----------	----------

教養は慣れればなんとかかなりでしたが、専門は難易度が高かったので専門重視で勉強を進めました。論文と面接はそこまで配点が大きくないので、直前に最低限の対策を行う程度で特に力を入れては対策しませんでした。

試験結果

- ・ 席次 下
- ・ 英語加点 あり（25点）

利用してよかったもの

- ・ 過去問（人事院から取り寄せるなら早めに！）
- ・ 学部時代の授業の資料

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

教養の試験は時間勝負なので、過去問をたくさん解いて問題に慣れることで解くスピードを上げつつ、復習をすることで勉強を進めていました。直前に判断推理の参考書をやってりましたが、個人的には過去問をちゃんとやった方が効果的だと思います。

■ 専門1次（技術論、基礎科学、熱力学、電磁気学、原子力工学）

基本的な内容を教科書などでざっと確認した後、過去問を解いて分からないところを確認していくという流れで勉強を進めていました。選択科目は最大で6科目選べるので、分からない問題があったときは他の科目の解けそうな問題をつまみ食いしていくのがいいと思います。

■ 専門2次（熱力学、環境工学）

過去問を解いてみて、分からないところの確認や関連知識を調べることで勉強を進めていました。熱力学と電磁気学の対策を行っていたのですが、試験当日は電磁気学が全く分からず、急遽環境工学を大学で学んだことを頼りに解きました。おすすめはしませんが、諦めない気持ちが必要だと思います。

■ 小論文

小論文の書き方の基本を確認してから、過去問を数回解きました。正直なところ本番ではあまり書けなかったのも、もっと演習を重ねて小論文に慣れておくべきだったと思います。

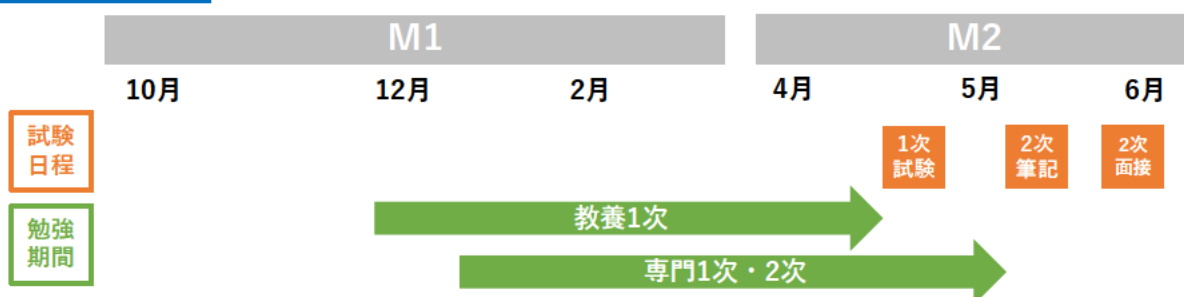
■ 人事院面接

面接カードを丁寧に書き上げ、質問されそうな内容を想定し答えられるよう対策しました。基本的に面接カードに従って質問されるので、自分が書いた内容はちゃんと覚えておくといいと思います。

くつかんちゃん (化学・生物・薬学区分/院卒者/2019年度)

～ 大学所在地：東京都 / 農学生命科学系研究科 生物材料科学専攻～

スケジュール



M1の冬頃から市販の過去問集を中心に教養の勉強を始めました。2次専門試験のほうが圧倒的に難しいと思ったので、1次の勉強はそこそこに、早めに2次の勉強に手を付け始めました。2次討議、面接、小論文対策に関してはほとんどやっていますが、普段から志望動機について真剣に考えたり、友達と社会問題について話し合ったりしていたのが対策の代わりになったと思っています。

教養・専門・論文/政策討議・面接の勉強量バランス



試験の配点が高く、内容も難しい専門分野を重点的に勉強しました。教養分野は範囲が広くキリがないのである程度の分量に留めました。面接、討議は2次の筆記試験が終わってから短期集中で取り組みました。

試験結果

- ・ 席次 中
- ・ 英語加点 あり（15点）

利用してよかったもの

- ・ 参考書（J出版のがオススメ）
- ・ 試験についてのネット情報

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

過去問を中心に市販のテキストを参考にして勉強しました。理系分野はそこまで難しく感じませんでしたが、文系分野は馴染みのない用語や膨大な暗記量に苦労しました。単元のチェックリストを作り、長い時間をかけて一つ一つ計画的に攻略していきました。

■ 専門1次（有機化学、工業化学・化学工学、生化学・分子生物学など）

生化学分野の研究室にいたので、化学と生物知識が一番使えるこの分野を選びました。院試勉強のときの要領で、大学の授業のプリントや専門書を中心に勉強しました。専門2次の勉強をやっていれば専門1次の点数もついてくると思います。

■ 専門2次（生化学、分子生物学）

まず市販の参考書の問題をやってみて、自分ができない分野の把握から始めました。次に、自分の専門分野から近いところ、時間効率的に最も点数を伸ばせるところから対策していきました。1次の勉強はほどほどに早めに専門2次に切り替えられたのが合格に結び付いたと思います。

■ 政策討議

本番で戸惑わないように、どんなテーマが出題されるかや試験時間をネットで調べる程度に留めました。あまり対策していません。

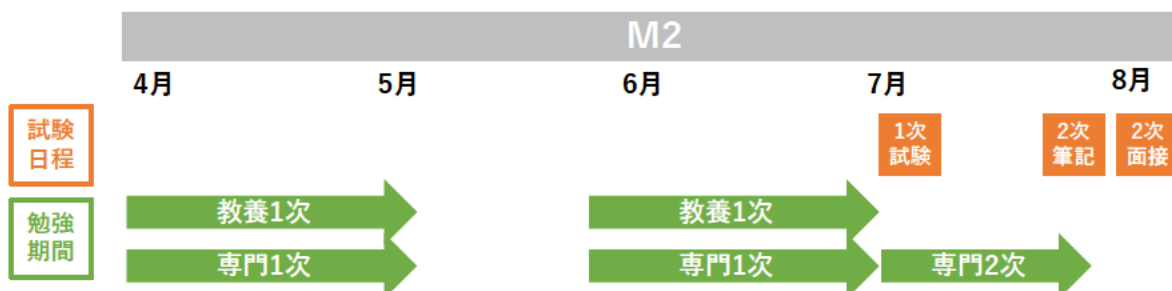
■ 人事院面接

大学の就活支援センターで相談員の方に話を伺ったり、疑似面接を受けたりしました。なかでも、就活生どうしで面接官、就活生の役割を演じて疑似面接を行うイベントは、面接官目線で気になるポイントに気づけて大変有意義でした。

ゆでだこ（工学区分/院卒者/2020年度※コロナのため異例）

～ 大学所在地：北海道 / 工学院 環境創成工学専攻～

スケジュール



M1の3月末に受験を決意し、M2の4月頭から勉強を始めました。勉強を始めるのが遅すぎて、本来に1次で落ちそうだったので、7月までは専門もずっとマークシートの勉強をしていました。しかし、試験の延期が決まり、5月は中だるみからほぼ勉強に手がつかず…6月に入ってから気持ちを入れ直して頑張りました。専門2次は1次試験後に急いで勉強しました。

教養・専門・論文/政策討議・面接の勉強量バランス



1次試験までは教養科目を重点的に取り組み、専門は最低限手を付けました。また、教養科目は知能問題に絞って対策していました。1次試験後に専門2次に取り組みました。人事院面接はぶっつけ本番でした。

※コロナのため討議は実施なし

試験結果

- ・ 席次 上
- ・ 英語加点 あり（15点）

利用してよかったもの

- ・ スー過去シリーズ（専門科目）
- ・ 畑中先生のワニ本（教養科目）
- ・ 大学の図書館

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

とにかく試験まで時間がなかったので知識分野は捨て、知能分野（文章理解・判断推理・資料解釈）を市販の参考書を使って勉強しました。延期が発表されてからも知識分野には手を出さず、知能分野の同じ参考書を何周かしました。

■ 専門1次（基礎化学、流体力学、環境工学・衛生工学、機械力学、熱力学）

自身の専門と馴染みがある基礎化学、流体力学、環境・衛生工学、熱力学を中心に市販の参考書や大学の教科書を使って勉強しました。個人的に物理の力学が得意だったので、気分転換に機械力学を解いたりしていました。当日は急遽、技術論2問を解きましたがなんとかできました…広く浅く対策するのが重要だと思います！

■ 専門2次（環境工学・衛生工学（B）、熱力学）

授業や研究室で何度も勉強していた衛生工学と、毎年傾向が安定していた熱工学を選択しました。図書館で借りた参考書とにらめっこしながら勉強し、過去問の模範解答を作成するだけでなく、基本的な公式の証明は一通りできるように準備しました（当日、証明問題は出題されなかった!!!）。

■ 政策討議

コロナの影響で中止になったため特に何もしていません。

■ 人事院面接

面接は民間の就活を通して、自信があったので特に対策はしませんでした。当日はとにかく面接官と会話することを意識して臨みました。